

令和5年度 浜松市立天竜中学校 学校評価

I 令和5年度の重点取組

【学習指導部】	【特別活動部】	【生徒指導部】	【教務・渉外・管理部】
<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着、問題発見や課題解決学習の充実 ・振り返りの充実・基礎的・汎用的能力の育成 ○考える力・伝える力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・他者を意識した表現活動の推進 ○ICT機器の効果的な活用 <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの有効活用による授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体性・協働性・創造性が育つ学校行事・生徒会活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的、協働的、創造的に運営する学校行事 ・自治的生徒会活動やキャリアパスポートの有効活用 ○粘り強さ・レジリエンス・多様性を尊重する心が育つ活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・他者から学び、多様性を認め合うことよき気づく活動 ・特別な教科道徳の充実 ・生徒主体の清掃活動やボランティア活動 ・自分を鍛える部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いのよさを認め、活力ある生徒を創造できる生徒の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・発達支援教育の理念を根底に据えた生徒指導體制の確立 ・いじめ、不登校への丁寧な対応と未然予防対策の推進 ・カウンセリング機能、相談体制の充実 ○心身の健康の保持・増進・強化 <ul style="list-style-type: none"> ・食育の推進、生活習慣の確立、メンタルコントロール力の向上 ・体力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○開かれた、特色ある学校づくりの推進・環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の地域交流、貢献の拡充によるキャリア教育の推進 ・コミュニティスクールによる特色ある学校づくりの推進 ・「自分探し」「夢実現」の支援「生き方講話」の実施 ○積極的な情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・各種たより、HPやブログ等での積極的な発信

II 自己評価

○生徒の評価

生活アンケート	1	楽しく生活できている。	93%
	2	安全で安心して生活できている。	93%
	3	自分のクラスは何でも話せる雰囲気がある。	83%
	4	困ったとき、相談できる先生がいる。	87%
	5	元気に誰にでもあいさつできる。	88%
	6	正しい身なりで生活することができている。	94%
	7	係の仕事を責任もって行っている。	92%
	8	清掃をしっかりと行っている。	92%
	9	授業は集中して取り組むことができている。	88%
	10	部活動は充実した取り組みができている。	83%
学習アンケート	1	各教科の授業を通して、目標を達成できている。	87%
	2	朝読書にしっかりと取り組んでいる。	91%
	3	休み時間に次の授業の準備をし、2分前着席・1分前黙想を実行している。	89%
	4	授業では学習課題を理解して取り組んでいる。	87%
	5	先生の話や友達の発言をしっかりと聞いている。	93%
	6	授業の内容をしっかりとノートにまとめている。	92%
	7	積極的に挙手・発表をしている。	52%
	8	授業中にむだ話や余分なことをしていない。	77%
	9	授業の道具を忘れず、宿題は期限までに提出している。	82%
	10	家庭学習を毎日平均1時間以上している。（塾や宿題を含む）	66%

○保護者の評価

保護者アンケート	1	学校は、安心安全で楽しく過ごせる場所である。	95%
	2	学校は、分かりやすい授業をしている。	85%
	3	学校は、基礎的な学力が身につくような授業をしている。	87%
	4	学校は、個に応じた学習をしている。	59%
	5	学校は、生徒一人一人を理解し、大切にしている。	86%
	6	学校は、いじめのない集団（学校・学年・学級・部活等）づくりに取り組んでいる。	88%
	7	学校は、地域や家庭と連携して教育活動を進めている。	86%
	8	学校は、家庭訪問や三者面談を含め、困ったときに相談できる雰囲気がある。	88%
	9	学校は、子どもの安全確認や健康管理のための取り組みを行っている。	88%
	10	学校は、行事や参観会、便りやホームページ（ブログ）等の方法で、学校や子どもの様子を発信している。	96%
	11	家庭で、「インターネットやSNS等の利用について」のルールを守らせている。	80%
	12	家庭で、「学校での出来事など」子どもの話に耳を傾けている。	96%
	13	家庭で、家庭学習（宿題や自主勉強など）をする習慣が身につくようにしている。	64%
	14	家庭で、「将来の夢」について子どもと一緒に話をしたり考えたりしている。	77%
	15	本校のキャリア教育で育てたい「4つの力（関わる力・見つめる力・追究する力・見通す力）」を知っている。	67%

III 学校運営協議会による学校関係者評価

令和6年2月8日（木）に開催した学校運営協議会において自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- 生徒の評価結果の数値がとても高い。自主的に動けるリーダーに育ってほしい。
- 生徒、保護者の自己評価が軒並み高い数値になっているのは、学校が常に「信頼」のメッセージを伝えていること、それにより良い関係が築けていることの表れではないか。
- 保護者は、平等に同じ教育をしてほしいと思うもの。多様性と個性を大切にできる子に育ってほしい。これからは知識と発想を両方育てていけるとよい。
- 学校は、ティーチングよりもコーチング。伴走者として教えるということが必要であるが、とても時間がかかるものだからこそ、学校でも地域でも学校と同様に子どもたちを支えていくことが大切になる。学校だけでなく、家庭地域もアップデートしていく必要を感じる。
- 社会においていじめ問題はとても深刻な問題である。本校でもそのような事案には丁寧に対応してほしい。

IV 今後の改善方策等

- 授業において、タブレット端末等のICT機器を効果的に活用したり学習形態に変化を持たせたりすることで、主体的に学習に取り組めるよう工夫する。また、一人一人の実態や課題にあった学習課題や解決方法などを指示し、個別最適な学びに向けた学習活動を展開する。
- 学校で作成した『学びのすすめ』の内容を見直し、本校における「学びの手引き」として活用する機会を増やす。家庭学習については、基礎的な内容の定着を図るものから、生徒の知的好奇心をくすぐるような発展的内容のものまでを教師が用意し、生徒の実態や興味に合わせて提示できるようにする。基礎的な内容のものについては、タブレット端末のドリル機能も活用し、家庭での学習習慣を定着させるとともに、学習の進捗状況も確かめられるようにする。
- 生徒による自治的な活動をより一層活発化させるため、学級、その他集団におけるリーダーの育成に力を入れるとともに、学校生活におけるルールや、新しい学校活動に関する提案など、生徒が主体性、創造性を持って学校を作っていく意識を持つことができるような活動を充実させ支援していく。
- アンケートや聞き取り等を活用して、いじめの早期発見、解決に向けた対応を組織的に行っているが、「いじめ対策委員会」の組織を生かし、今後も迅速な対応に心がける。